



特定非営利法人

## ターサエデュケーション

いちむら ただみつ  
市村 均光



### はじめまして

当法人は平成27年7月9日に設立し、3期目に突入したところです。このような節目の時期に「育ちと学び」に私たちの活動をアピールするという貴重な機会をいただきましたので、私たちか掲げるビジョン、設立の経緯そして活動内容を綴らせていただきます。

### ビジョン

「子どもが頑張りたいと思える雰囲気そして頑張ることができる環境を作ること、子どもの健やかな育ちを当たり前とし、一人一人が社会の中で実践者として活躍できる社会を実現する。」

私たちはこのビジョンを実現するため、「全ての子どもに公平な教育機会を提供する。」ことをミッションと掲げ、現在の支援対象である貧困、社会擁護、不登校という3つの環境にいる子どもたちに向き合い、解決するための教育機会を提供しています。

### 設立の経緯

私は母子家庭で育ちました。今思えば「父親がいない」だけと考えることもできますが、子どもの頃は1つのコンプレックスと捉えており、「僕はみんなとは違う」そんな劣等感を抱いていました。その頃の私は「自分はなんてかわいそうなんだ」と本気で思っていました。自分を守ることをばかり考え、周りにいるみんなと同じように振る舞うことを強く意識していました。みんなが持っているものは持ちたい、みんながやっていることをやりたい、みんなと違うって思われたくない。そんな日々であったように思います。

そんな私は月日を経て教育系大学に進学し、学習塾講師として働いた後に、市役所に就職しました。私が配属された部署は「子ども家庭課」。ここで大きな衝撃を受けました。私はここで生まれて初めて母子家庭が

貧困であること知りました。私は母子家庭で育ったのですが、全く貧困ではなく、むしろお金があると言われていた家庭でした。しかし現実には半数以上の母子家庭は貧困家庭であり、月収10万円に満たない収入で日々を生活していました。

そんな事実を知り私は心底自分が情けなくなりました。私は父がいないという劣等感だけだった。ほしいものは買ってもらえた、塾にも行かせてもらった、県外の大学にも進学させてもらった、車も買ってもらった。どれだけ自分が恵まれていたのかを強く実感しました。そして同時に強い怒りを感じました。なんでこの子どもたちは父がいないという劣等感を抱きながら、苦しい生活をしていかなければならないのだろうと。またお金がないということは様々なチャンスが制約されることを知りました。その結果彼らが大人になり親になったとき、その家庭は貧困家庭になっていく、そんな負の世代間連鎖が発生すること。

私はこの不遇を見過ごすわけにはいきませんでした。同じ母子家庭育ちとして、彼らに何かできることはないだろうかと考え始めました。自身の経験やスキルを考えたとき、私ができることはなんだろうか。それが学習支援でした。負の世代間連鎖を断ち切るために有効なことは学歴を得ること。学ぶ機会を無料で作ることができれば、子どもたちの未来が少しは変わるかもしれない。そんな思いから行動を起こすため法人を設立しました。

### 活動内容

#### □ Note Movies ノートムービーズ

<http://tasa-education.wixsite.com/notemovies>

教員（教員免許保有者も含む）が撮影した算数の学習動画をインターネット上で無料配信しています。現在動画数は85個、再生数は8,000回ほどです。貧困

世帯のスマートフォン所持率はそれ以外の世帯よりも高く、また夜子どもだけで過ごしている場合も多いことから自宅で安全そして無料で学べる機会を提供しています。動画撮影協力者は常に絶賛募集中です。



## □ フレーベン

(児童養護施設児童への学習支援)

群馬県内の児童養護施設へ出向き、学習支援を行っています。昨年度は前橋市内の児童養護施設で計15回実施しました。親と一緒に暮らせない子どもたちは、十分の依存体験を経験していません。自己否定感が強く、自分を守るために乱暴な言葉遣いや人を信じないなどの傾向があります。また総じて学力は低く、勉強が嫌いです。そのために私たちは子どもたちを個別指導形態の学習をとおして1対1で「応援」することで、彼らの学習意欲と学力そして自己肯定感を高めています。

## □ フリースクールこらんだむ



学校に行けないもしくは行かない子どもたちの学校外の居場所を前橋市で運営しています。昨年9月に開校してから体験も含め6名の子どもが利用しています。不登校状態の子どもは心身ともに疲れており、自己肯定感が低下しています。そのため、頑張らなくても行ける場所をコンセプトに私たちから提供するプログラムは現在全くありません。しかし、目の前の子どもを一生懸命理解しようとする大人と居場所があるだけで心はゆっくり回復していきます。その結果、学校に戻るという選択肢をした子どもや自身でスケジュール

ルを決め主体的に過ごしている子どもも出てきています。現在は不登校の受け皿としての機能を重視していますが、不登校に限らず子どもを出発点とした学び場の1つ選択肢になることで、多様な学びを実現したいと考えています。



## □ SAME BOAT

群馬県内の不登校の親子がつながるきっかけを提供するイベントを実施しています。昨年は群馬県委託事業として3回実施しました。子どもは子ども、親は親各々でつながれるように別々にプログラムを提供しています。マイノリティと言われる社会的少数派の方々とはつながる機会が少なく、孤独という課題を抱えていることがあります。同じ状況である方々が集まることで、自然に分かり合えることから、普段言えないことや言ってもわかってもらえないことなどを自然に共有することができるため、共感が生まれ、つながりが生まれます。

◆TASAはフィンランド語で「公平」という意味です。フィンランドは高福祉国家であり、教育レベルが世界一と言われています。政府も、どんな子どもにも手厚く教育をすることを方針として掲げ、国力をあげて推進しています。

◆「こらんだむ」には2つの意味があります。

- ①「子どもはみな違う」「子どもはみなランダム」という意味。違いを認め合うという意味を込めました。
- ②コランダムとはダイヤモンドを磨くための鉱石です。ダイヤモンドは子どもたち。ダイヤモンドも最初はただの鉱石です。それを磨き上げる場所でありたいという想いから、こらんだむとしました。

《連絡先》

前橋市二之宮町 1291-6

特定非営利活動法人ターサ・エデュケーション

URL:<https://tasa-education.jimdo.com>

e-mail:[tasa.educate@gmail.com](mailto:tasa.educate@gmail.com)